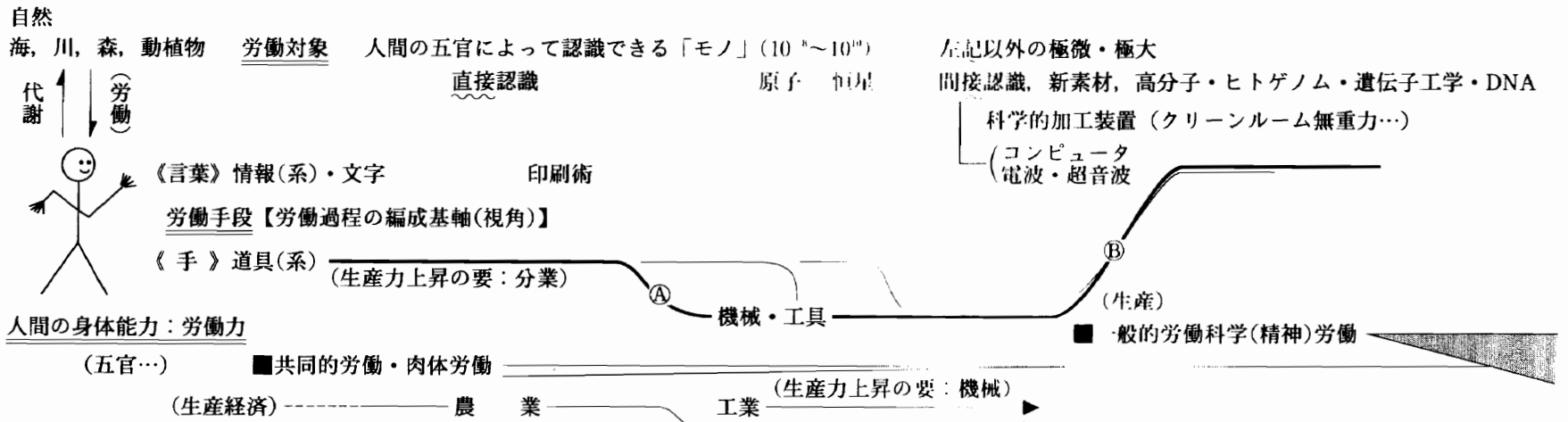
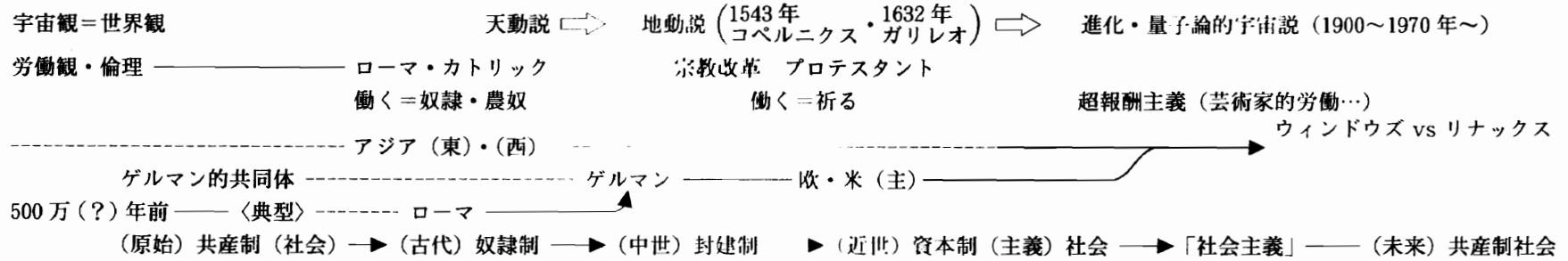


第1図 労働過程の編成基軸からみた人類略史



① <A・スミス→K・マルクス>  
 生産力上昇のカギは「分業」  
 ↓  
 道具を使用する共同労働  
 ↓  
 生産力上昇のカギは「機械」へ  
 機械を使用する共同労働 (苦汗労働)

② 現在の時点 <K・マルクス→T・クサマ>  
 労働過程 (労働手段・対象) 革命  
 モノづくりの激変=工業製品のコピー  
 肉体労働: 「非」熟練女性労働者  
 ↓  
 組立・加工・稠密・微細 (苦汗労働)  
 アジアへ  
 生産力上昇のカギは機械 (自動操作・オートメーション段階) から機械を操るコンピュータ・プログラム→ソフト労働→情報→一般的科学的労働へ

人類史の通過点としてのアジア資本主義と日本